

# ケアセンターけやき

症例概要 利用者：80代 男性 要介護3  
主病名：アテローム血栓性脳梗塞  
利用サービス：通所リハビリ  
利用期間：R7.6～

## 経過：

当初は身体を動かす事、コミュニケーションをとる事に消極的でしたが、ユマニチュードを意識して関わることで、職員や他ご利用者とも交流を持つようになり、リハビリにも前向きに励んで、今では通所リハビリを楽しくご利用されている事例を推薦いたします。

## 内容

氏は竹川病院を6月に退院された後、外出機会の確保などを目的に通所リハビリの利用を開始されました。

当初はフロアの自席で眠っている事が多く、職員が話しかけるも「めんどくさい」、「ほっといてよ」とおっしゃり、体を動かすことに対しても「こんなことやるなら死んだ方がましだ」と、かなり強く拒否されていました。何度か通われるも「妹に迷惑かかるから仕方なく来ている」と暗い表情のままでした。

そこで、リハビリ職員と介護職員がチームとなって話し合い、ユマニチュードを実践することにしました。

氏は白内障や同名半盲により目が見えにくく、顔が覚えられないため、話す意味がないとおっしゃっていたことから、顔が見えやすい位置で手を取り、目を見ながらコミュニケーションを図りました。

続けていくうち、「あなた●●さん?」と名前を覚えて自ら話しかけ、「今日は楽しいね」など笑顔も見られるようになりました。そして、マシーントレーニングも「●●さんに誘われたから行くよ」とすんなり取り組み、運動嫌いなうえに視界不良と不安ある歩行も信頼できる職員となら大丈夫、と距離を伸ばしていきました。

顔見知りの職員が増えるにつれて、「人の為なら頑張れる」「リハビリするとやっぱり違うな」など前向きな言葉が多く聞かれ、今ではフロア2周ほど継続的に歩くことができています。

笑顔なく不安や不満を抱えていた氏がいつも笑顔で来所され、他ご利用者とも積極的に交流される

までになった、この経験を活かしてリハビリ職員と介護職員がour teamとなって皆さまに楽しくお過ごしただけ、より良いサービスを提供していきたいと思ひます。

## 【OUR TEAM】

- ケアマネジャー (CM) : 本人の不安に配慮した支援計画の立案、多職種連携の推進
- 介護職員 : 安心できる活動環境の提供・日常の見守り
- 看護師 : 体調管理・精神的安定への寄り添い・医療的観察
- セラピスト (PT) : 週2回・1回20分間の個別運動プログラム実施・活動意欲の引き出し
- 通りハ職員全体 : 交流の場の提供・楽しく過ごしてもらうための雰囲気づくり